

令和5年度《学校経営計画》

名張市立南中学校

学校長 藤山 正道

1 学校教育目標

豊かに 強く 生き生きと

2 めざす学校像、児童・生徒像、教職員像、保護者・地域像

○学校像	安心して登校でき、満足して下校できる学校 地域とともにある学校
○児童・生徒像	夢の実現に向けて自ら考え、主体的・自律的に行動する生徒
○教職員像	専門職としての自覚を持ち、自ら研修に励み、生徒とともに歩む教師
○保護者・地域像	小・中学校を核としてつながり合う保護者・地域

3 学校の現状

全体的には落ち着いた雰囲気の中で、学習・スポーツともに真剣に頑張ろうとする姿勢が見られる。反面、主体的に行動する力は希薄である。

小中一貫教育については、昨年度は新型コロナウイルス感染症にかかる対応のため、実施できないことも多かったが、取組については、保護者・地域にも理解され、国際交流イベント・乗入れ授業等、今後の飛躍という観点から期待も大きい。また、コミュニティ・スクールについては、以前からの地域との関係性もあり、「地域とともにある学校」という考え方が浸透している。

地域の方々と共に地域のあり方を考えていく「つつじっ子会議」の活動も定着し、また、つつじが丘小学校への広がりもあり、生徒たちは意欲的に活動を行っている。

不登校傾向の生徒、特別な支援を必要とする生徒も多い。また、家庭環境の複雑化による不安定な生徒や虐待等により心に傷を負っている生徒の割合も非常に多い。そういった事案の解決に向けて、関係機関との情報共有等の連携とともに、つつじが丘小学校との小中一貫教育を活用した取組も欠かせない状況となっている。

本年度の改善方策

小中一貫教育をさらに進めるため、5・6年生の乗入れ授業の更なる工夫や生徒会・地域とのあいさつ運動などの協働事業、つつじが丘・春日丘・国津をよりよい街にするための取り組みを行う「つつじっ子会議」等、より一層積極的に行っていききたい。

不登校・不登校傾向の児童・生徒が多い現状に鑑み、今後さらに小中一貫教育推進の「こころ・からだ部会」を軸として不登校生徒減に取り組むとともに、教育相談の充実や保護者との連携を密にしながら、児童・生徒の地域と連携した居場所づくりに努めていきたい。

また、これまで続けてきた研究をさらに深め、全教職員が、「生徒の主体的な姿」を意識した「自己選択の場面」を設定し、さらなる授業改善に努めていきたい。

子どもを中心につながり合う学校運営協議会を目指し、地域とともにあるコミュニティ・スクールの推進を図っていききたい。

部活動ガイドラインの徹底を図ると共に、定時退校日の設定等による勤務時間の縮減に努め、小中一貫教育を通して働き方改革を推進し、働きやすい環境作りを更に推進することにより、心身ともに健康な状態で教育活動にあたっていききたい。

4 重点的な取組事項

番号	内 容	実 施 期 間				
		3	4	5	6	7
1	小中一貫教育を通じた授業改善（学力の向上）	○	○	○		
2	安心して登校でき、満足して下校できる学校	○	○	○		
3	小中一貫教育の定着とコミュニティ・スクールの推進	○	○	○		

5 令和5年度の重点目標

重点的な取組事項－1 小中一貫教育を通じた授業改善（学力の向上）

A 今年度の成果目標

- ・「授業に進んで取り組んでいると答える生徒の割合95%」をめざす。
- ・全職員が研究授業・事後検討会を通し、授業改善に努める。

B 目標実現に向けた取組

具体的な方策

- ① 全教職員が、「生徒の主体的な姿」を意識した「自己選択の場面」を設定し、研究授業・事後検討会を通して授業改善に努める。
- ② 家庭学習の大切さを再確認し、自主的な家庭学習のあり方、質・量を含めた課題、処理の仕方等について校内研修会や小中合同「学び部会」で研究・検証する。
- ③ 小中合同「まなび部会」を中心に、小中学校全体で指導方法の共通理解を図りながら、指導方法等の研究・授業改善に取り組む。

重点的な取組事項－2 安心して登校でき、満足して下校できる学校

A 今年度の成果目標

- ・「安心して登校でき、満足して下校できる学校と感じる生徒の割合95%」をめざす。
- ・「友達と協力し、仲良く楽しい学校生活を送っていると感じる生徒の割合95%」をめざす。
- ・「友達・先生・地域の方にあいさつ（会釈）を行っている生徒の割合95%」をめざす。
- ・長期欠席生徒数昨年度比90%をめざす。

B 目標実現に向けた取組

具体的な方策

- ① 小中一貫教育を通して、部活動・生徒会活動・つつじっ子会議・ボランティア活動・学校行事等の様々な取組の中で、自己肯定感を高めさせる。特に、つつじっ子会議の推進に力を入れる。
- ② 生徒会及びつつじっ子会議の取組の中で、引き続きあいさつ運動に力を入れ、学校だけでなく地域にも広くあいさつ運動を展開する。
- ③ 集団づくりや一人ひとりの見取りにおいて、Q-Uを効果的に活用すると共に、不登校児童・生徒を新たにうまないために、小中一貫教育推進の「こころ・からだ部会」を中心に、児童・生徒に軸足をおいた取組に努める。

重点的な取組事項－3	小中一貫教育の定着とコミュニティ・スクールの推進
A 今年度の成果目標	
<ul style="list-style-type: none"> ・「中学校への乗り入れ授業は、中学校になれるために役立つと感じる児童の割合90%」をめざす。 ・「子どもを中心につながり合う学校運営協議会等」を定期的に開催し、PTA と協働する中で、コミュニティ・スクールの推進を図る。 ・小中一貫教育の視点に立った「つつじっ子会議」の充実・定着を図る。 	
B 目標実現に向けた取組	
具体的な方策	
①	中学生が主体的にかかわる乗り入れ授業や、小中一貫教育の視点に立った「つつじっ子会議」等をより活性化する。
②	小中一貫教育を通して、小中9年間の系統的・継続的な学習指導・生活指導・進路指導に努める。
③	学校、PTA 及び学校運営協議会の方向性の一本化を図り、学校・PTA 組織・学校運営協議会がより機能的な運営を行えるように努める。

6 学校における働き方改革の推進に向けた取組

上限時間に基づく目標		
成果指標①	1人当たりの月平均時間外労働	30時間以下
	年360時間を超える時間外労働者数	0人
	月45時間を超える時間外労働者の延べ人数	0人
具体的な方策	<p>一斉退校日の設定及び、出張時、勤務終了時刻を超える場合は直帰を基本とする</p> <p>学校行事等の見直し及び職員会議のペーパーレス化を図る</p> <p>職員室や印刷室等の整理を行い、事務作業を効率化する</p>	
休暇取得促進の目標		
成果指標②	1人当たりの年間休暇取得日数	12日以上
具体的な方策	<p>年間計画を基本とした学校運営と各職員による計画的な業務実践を図る</p> <p>長期休業中や定期テスト時の計画的な休暇取得を推進する</p>	
学校独自の取組		
活動指標	設定した日の定時に退校できた職員の割合	60%以上
	予定通り休養日を実施できた部活動の割合	95%以上
	放課後に開催して60分以内に終了した会議の割合	60%以上
具体的な方策	<p>会議資料のデータによる事前配付、事前検討により、会議の効率化を図る</p> <p>年間計画や各月予定に基づいた業務計画を立案する</p> <p>限られた時間の中での工夫した部活動運営の推進を図る</p>	